

四月のテーマ

夫婦道



え・たむらかづみ

相手への尊敬 信頼あればこそ

仕 事の場合において、円滑に業務を進めていくためには、

人間関係を構築する力が求められます。周囲の人と心を合わせ、チームワークを高めていくには、①相手を変えようとせず自分を変えていく、②自分から相手に合わせていくことがコツです。

この態度が身についているか否かを図るバロメーターとして、「最も近い他人」ともいえる配偶者との関係をあげることができましょう。

*

ある六十代の夫婦が、「倫理経営講演会」に参加した時のことです。講演では、講師の女性が自身の体験を話しました。その講師は、「ガミガミうるさい夫を嫌っていましたが、純粹倫理に触れ、「まず自分から変わることを」学んで実践するうちに夫婦関係が改善した、という内容でした。

この体験を紹介した後、講師が「皆さん、人のせい、世の中のせいにしてはダメですよ。まず自分から変わっていきましょ」と

聴衆に訴えました。すると、講演を聞いていた夫妻の夫が、隣の妻に向かって、こう言ったのです。

「人のせいにしちゃダメだよ」

笑い話のようですが、私たちの日常にも、似たようなことはあるのではないのでしょうか。思わず出てしまったこの言葉こそ、相手を変えようとする本音を表わしているといえましょ。

人間はよほどのことがないと、自分を改めようとは思わないものです。だからこそ、意識して実践する必要があるのです。

次に、「相手に合わせる」のも、言葉で言うのは簡単ですが、なかなか難しいものです。

倫理を学んでいる経営者のK氏は、「妻の話をよく聞く」「妻の意見に合わせる」ことを実践の目標に掲げていました。

ある日、夫婦で買い物に出かけた時のこと。妻のショッピングに付き合いながら、K氏は「これも実践だ」と思いながら歩いていました。

商品を選ぶ妻の横で考え事をし

ていると、妻が「これ、似合うかな？」と聞いてきました。K氏は「いいんじゃない」と答えました。すると、「何がいいのよ。ちゃんと見てもいいのに」と、妻が怒り出したのです。

妻が選んだ商品を買ったく見ずに、よそ見をしながら答えたK氏。妻はその態度を見逃さず、口先だけで合わせていることをズバリと指摘したのでした。K氏は、「妻の話をよく聞く」という実践を掲げているながら、「自分を見てほしい、夫に認めてほしい」という妻の心に寄り添っていませんでした。

*

「相手に合わせる」という時、形はもちろん大切です。しかし、もっとも問われるのは、「心」のありようでしょう。自分の言葉や行動の源に、相手を本当に尊敬、信頼している心があるでしょうか。まさに「夫婦の心の一致しているかないか」に、すべてがかかっています。人間関係の土台ともいえる夫婦関係を今一度見つめなおしたいものです。